

明石のまちの状況と まちづくりの取組状況

あかしSDGs推進審議会

2

明石市の特性



時のまち

子午線上に建つ
天文科学館



海のまち

明石鯛
明石焼



大蔵海岸ビーチスポーツスポット



歴史のまち

源氏物語にも登場
明石城はさくらの名所



秋祭り・布団太鼓



近年は！

こどものまち



明石独自の5つの 無料化

医療費	18才までの全員
保育料	第2子以降の全員
おむつ	満1歳まで 宅配も
給食費	中学生
遊び場	親子とも

すべて
所得制限なしすべて
自己負担なし

妊娠・子育てまるごと寄り添い支援



SDGs 未来安心都市・明石

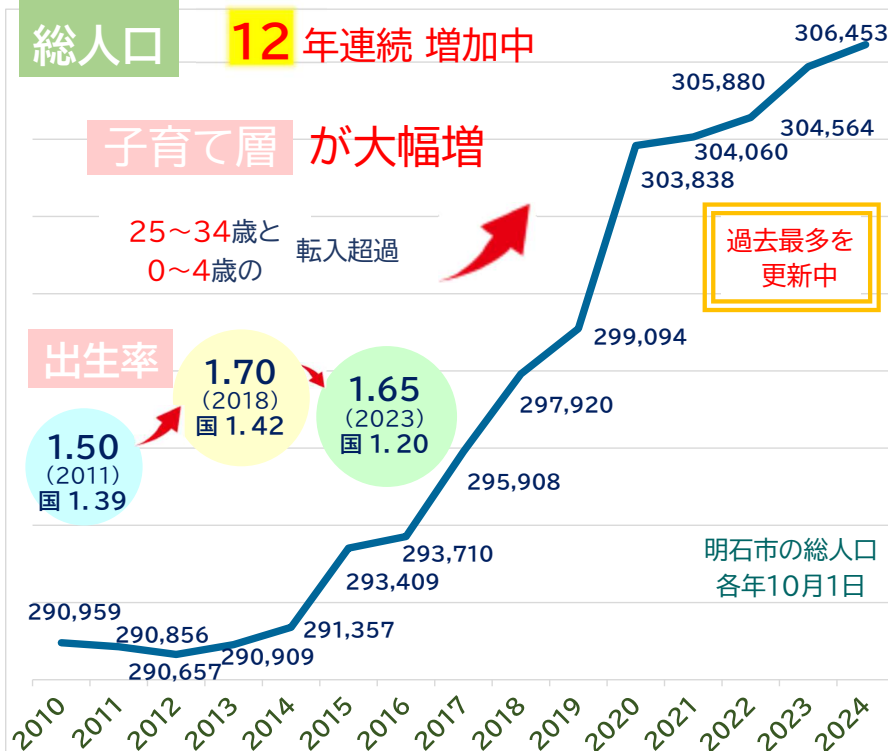
“もっと”やさしいまち明石

総人口 12年連続 増加中

子育て層 が大幅増

25~34歳と
0~4歳の
転入超過

出生率

1.50
(2011)
国 1.391.70
(2018)
国 1.421.65
(2023)
国 1.20過去最多を
更新中※2024/12/1時点
306,521人
+1万6千人

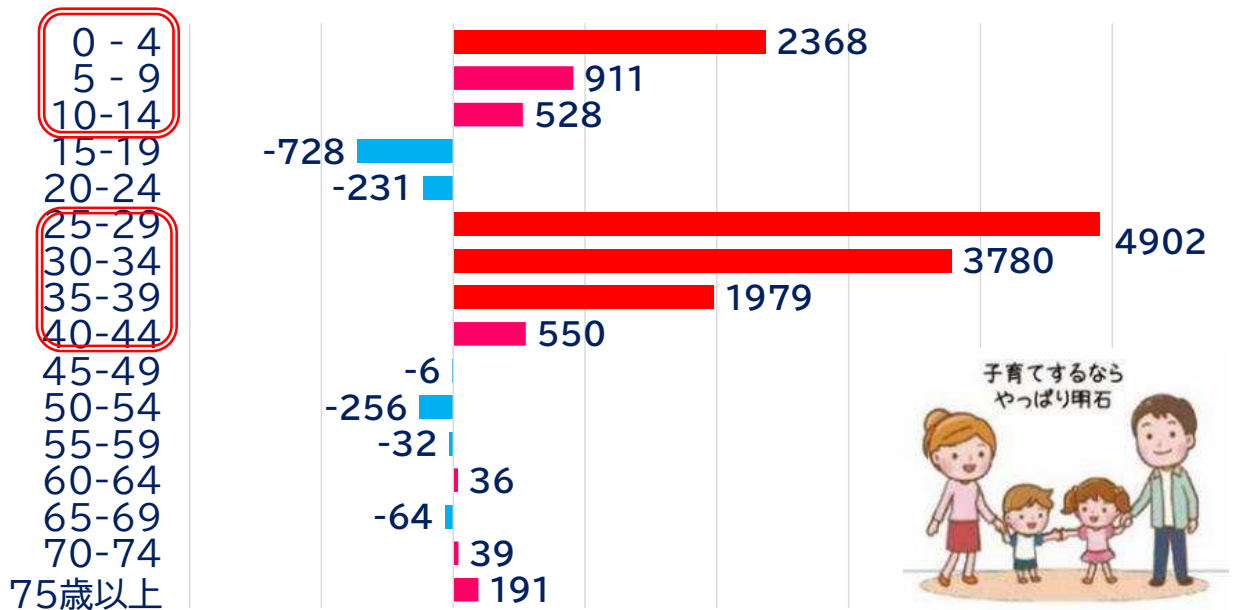
SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

社会動態の動向

転出入による増減人数
(2013～2024年)

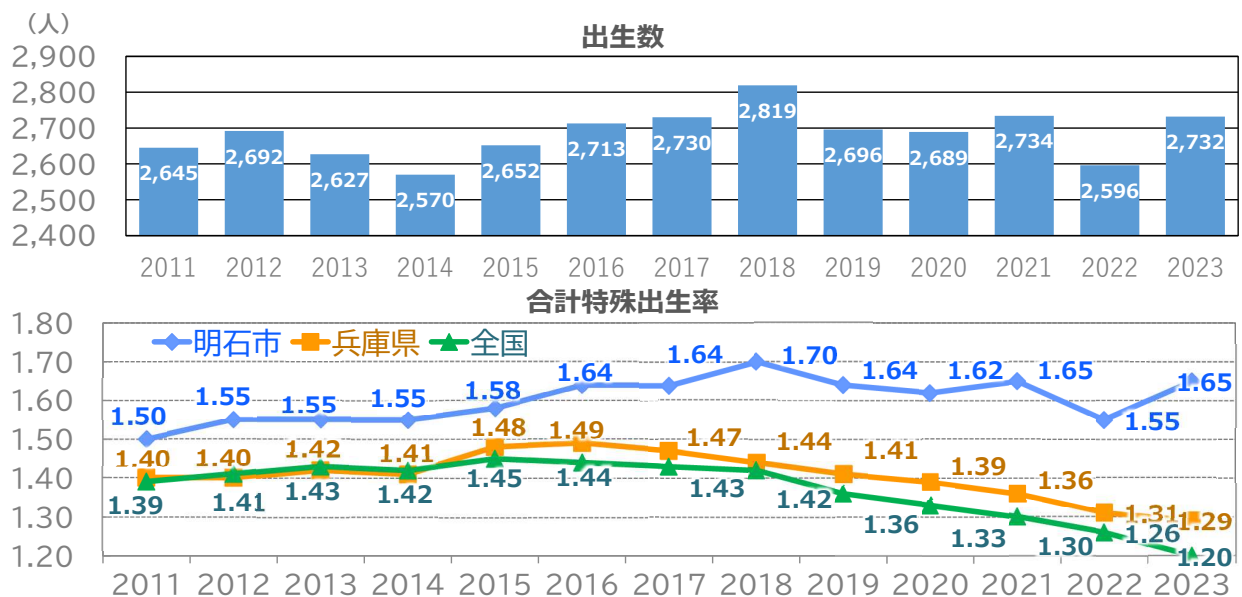
～子育て層が大幅に増加～



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

出生数と合計特殊出生率の推移

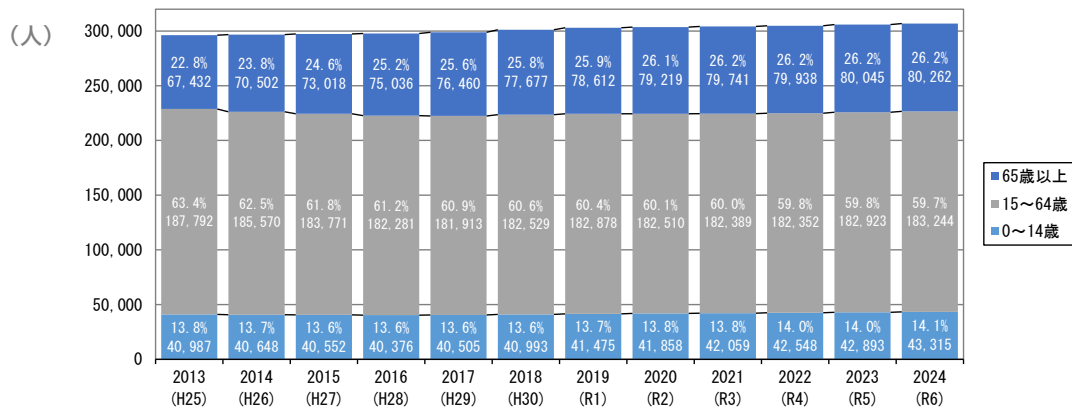


国県平均より高い合計特殊出生率を維持しています

SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

年齢3区分人口の推移



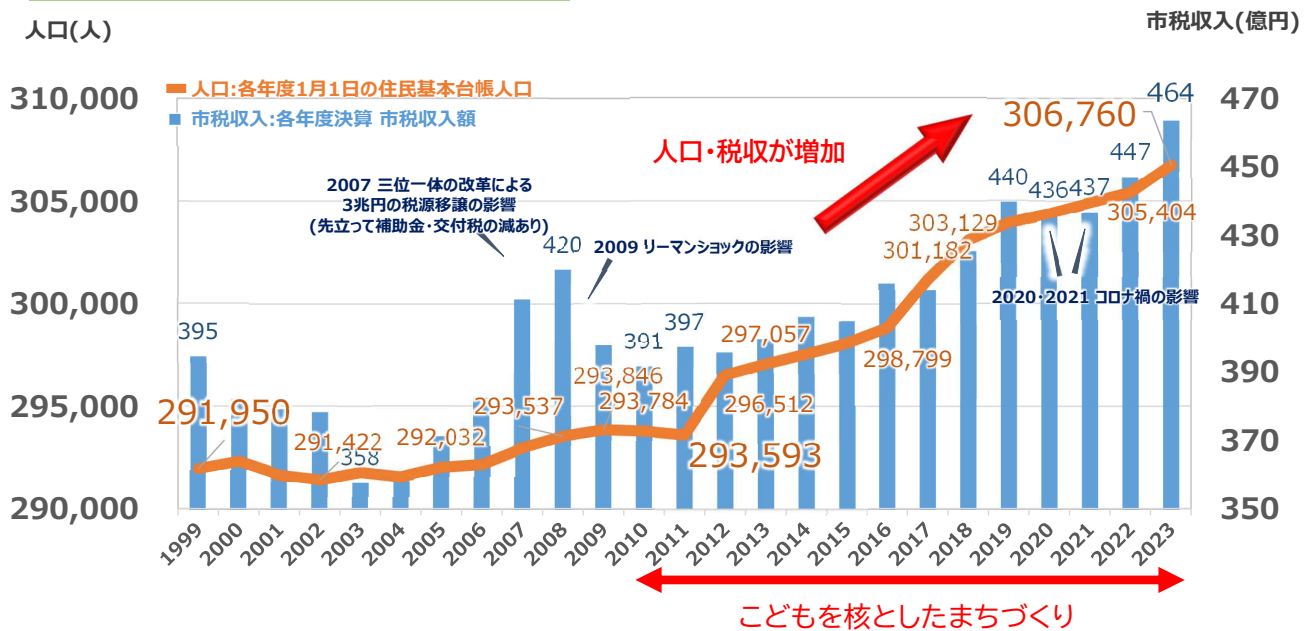
	国	兵庫県	明石市
65歳以上	28.6%	28.9%	26.2%
15～64歳	59.6%	59.0%	59.8%
15歳未満	11.8%	12.1%	14.0%

15歳未満の割合が増加し国県平均より高くなっています

SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

人口と市税収入の推移



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

まちの好循環

- ① **施策** こどもを核としたまちづくり
明石独自の5つの無料化など
- ② **安心** 子育てしやすいまち
- ③ **人口** 12年連続人口増
- ④ **にぎわい** 中心市街地の新規出店数増
- ⑤ **財源** 税収増で 持続可能な財政運営
- ① さらなる **施策** **誰にもやさしいまちづくり**
高齢者、障害者施策など 充実化
- ② さらなる **安心** すべての人にやさしいまちへ



こどもを核としたまちづくりの背景

明石の地域特性

- ▶ 温暖で晴天が多い気候
 - ▶ 比較的平坦な地勢
 - ▶ 交通の利便性の高さ
 - ▶ コミュニティのまちづくりの歴史
 - ▶ 京阪神都市圏のベッドタウン
- ⇒ 住みやすい地域特性

まちづくりの課題

- ▶ 若者の流出
- ▶ コミュニティの希薄化

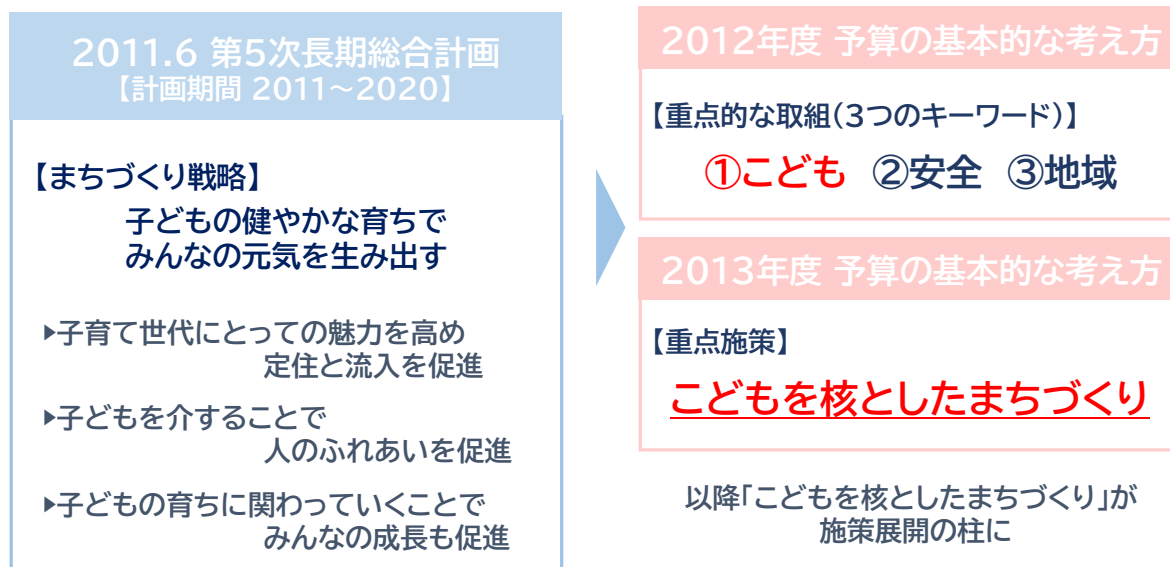
2010年度 総合計画策定審議会

- ▶ 「人が育つ」ということが一番大事
- ▶ 総花的ではなく得意分野に絞りこんで柱を立てるべき

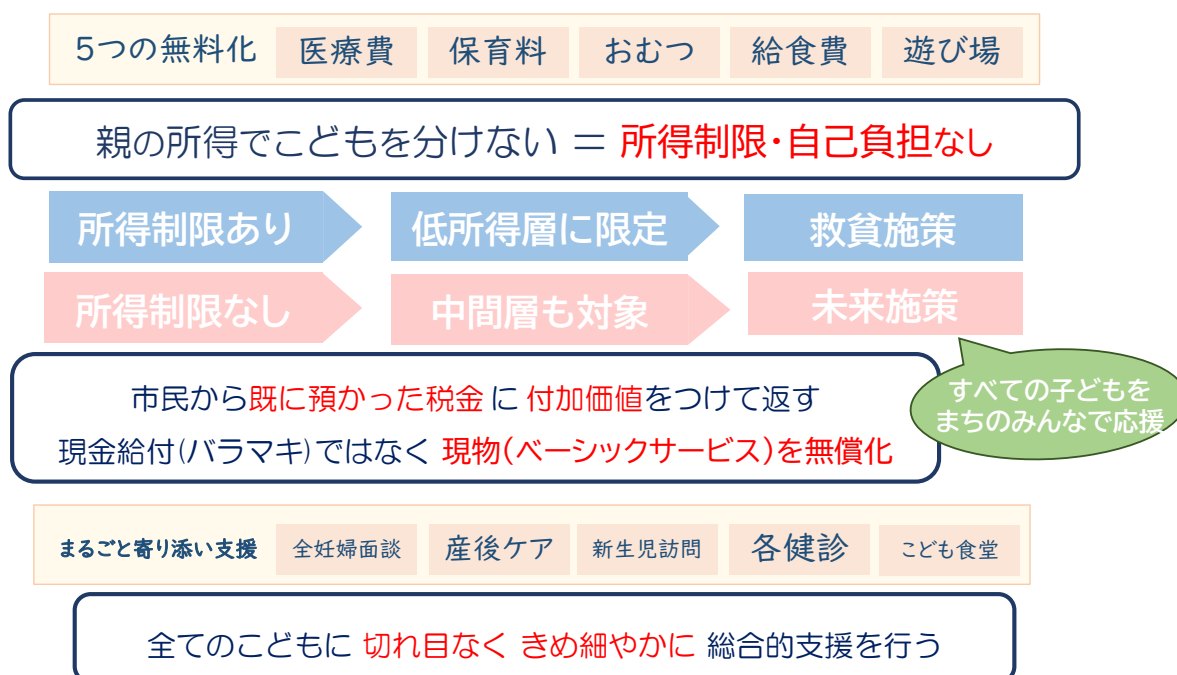
2010年度 議会意見

- 最初は「こどもだけに焦点をあてるのはどうか」との意見もあったが 最終的には
- ・ こどもの笑顔につながることを重点的にやってもらいたい
 - ・ 子どもの可能性を伸ばし 広い視野を持った子どもを育てていくことが重要

こどもを核としたまちづくりの背景



こどもを核としたまちづくりの理念



誰にもやさしいまちづくり

高齢者	認知症あんしんプロジェクト（診断費用無料など） みんなの給食の実施 運転免許返して安心プロジェクト
障害者	手話言語・障害者コミュニケーション条例制定 障害者配慮条例（合理的配慮を支援する公的助成制度） あかしインクルーシブ条例
犯罪被害者	損害賠償の立替支援金制度 再提訴などの費用補助 特例給付金制度の創設（遺族に賠償金を支給）
更生支援	明石市更生支援等条例（更生支援ネットワーク会議の創設）
LGBTQ+	明石にじいろ相談 パートナーシップ・ファミリーシップ制度等 LGBTQ+施策担当の専門職を全国から公募し採用

明石市のまちづくり基本構想

あかしSDGs推進計画 （明石市第6次長期総合計画）

明石市の
最上位計画

まちづくりの基本理念

こどもを核としたまちづくり

誰にもやさしいまちづくり



① 持続可能

② 誰一人取り残さない

③ パートナーシップ

あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)

【2030年の目指すまちの姿】

内閣府より (県内初)
SDGs未来都市に選定

SDGs 未来 安心都市・明石

いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで

いつまでも 持続可能

まちの好循環により、明るい未来につながる
サステナブル(持続可能)な
まちづくりに取り組みます。

すべての人に

誰一人として取り残さない

年齢・性別・国籍・障害
などに関わらず、すべての人が
安心を感じられる インクルーシブ
(誰一人として取り残さない)な
まちづくりに取り組みます。

まちづくりの
数値目標

① 人口30万人

② 住みやすいと思う人の割合
100%

やさしいまち

やさしい社会を明石から

環境・社会・経済の統合的向上を
目指し、ハード・ソフト両面から
安心して暮らし続けられる
やさしいまちづくり
(やさしい社会を明石から)に
取り組みます。

みんなで パートナーシップ

市・市民・事業者などが一丸となって
みんな(パートナーシップ)で目標
の達成に向けて取り組みます。



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

市民とつながり
共に創る 明石の未来

対話と共創

やさしいまちを明石から

SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

市民と共に進めてきたまちづくり

まちづくりの課題

- ▶ 多様化する市民ニーズ ▶ 超高齢化社会の到来
- ▶ 市民力の高まり ▶ 地域資源を生かした地域経営 など

コミュニティづくり

- ▶ 昭和50年「**コミュニティ元年**」宣言
- ▶ 平成16年 28小学校区にコミセンを設置
- ▶ 平成18年「協働のまちづくり提言」
- ▶ 平成22年「明石市自治基本条例」施行
- 小学校区単位のまちづくり**
- ▶ 平成28年「明石市協働のまちづくり推進条例」施行
- ▶ 平成30年 全小学校区で校区まちづくり組織 組織化
- ▶ 令和6年 「**共創元年**」宣言

「対話」とは

対等に、他者の考えに耳を傾け、テーマを深掘りし、新しい発想を生み出すこと

議 論	会 話	対 話
・テーマが明確 ・結論を出す ・想像の枠を超えない ・違いを攻める ・自分の考えを変えにくい ・声が大きくなる	・自由に話す ・結論が求められない ・テーマなど決まりがない ・情報交換 ・考えを変えるものではない	・対等に話す ・他者の考えに耳を傾ける ・違いを探求する ・テーマを深掘り ・自分の考えも変わっていく ・集合知に導く ・新しい発想が生み出される

市民との「対話」による まちづくり

- ▶ タウンミーティングの毎月開催
- ▶ 個別分野におけるワークショップの開催
- ▶ ファシリテーターの養成



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

タウンミーティング



障害者



子育て



高齢者



こども会議



若者会議



環境・ごみ減量



西明石エリア



大久保エリア



二見エリア

SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

個別分野でのワークショップ



「おおくぼのまち」を
みんなで考えよう



明石市緑の基本計画
改定ワークショップ



みんなで考えよう!
新しい二見の図書館

そのほか

「西明石のまちづくり」
「財政白書」
「新庁舎整備」
「旧市立図書館跡地」

なども開催



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

ファシリテーター専門職の採用



全国から応募多数

任期付フルタイム勤務職員

ファシリテーション担当
を2名採用

市民との対話のさらなる充実・活性化を
市民、職員のファシリテーターも養成します

市民との対話の場をさらに充実・
活性化させ、市民との情報共有を
図りながら、市民とともに
まちづくりを進める
役割を担います。



市民ファシリテーター
の養成

職員ファシリテーター
の養成



対話で互いの思いや意見を
受け止め、引き出し広げる
手法について学びます。



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

《市民との対話から生まれた取組例》

◆ 4月 二見のイトーヨーカ堂の中に図書館がオープン

リビング＆ライブラリー

～まちの居場所、人と人がつながる場所に～



地域の声を
受けて

地域と共に、進化し続ける図書館に！

- ▶ キッズゾーンにロフトを設置
- ▶ キッズゾーンの棚の高さを低いものに（壁面書棚もすべて安全対策のため低いものに）
- ▶ リラックスゾーンの階段形状をやめ、静かにゆっくり過ごせるスペースに

「共創(コ・クリエーション)」とは

多様な立場の人々が、対話を通して、**新たな価値を共に創造していくこと。**

産官学民との「共創」による まちづくり

- ▶ 県や周辺市町との広域連携
- ▶ 民間事業者や大学等の研究機関との連携
- ▶ 民間提案制度との推進

周辺自治体との広域連携

KOBE  ×  明石市
UNESCO City of Design AKASHI CITY



生物多様性を守り、育てるための
連携・協力に関する協定 の締結

神戸マラソンの明石市延伸



神戸市と明石市は、あらたな連携・協力の体制を進めています

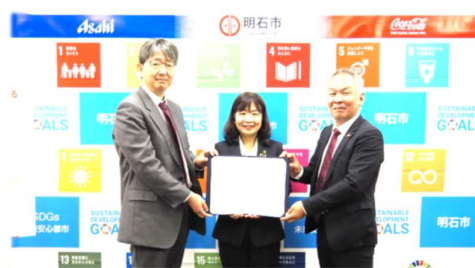
SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

官民連携 市民・行政・事業者の共創で循環型社会の実現へ

ペットボトルの水平リサイクル

Asahi  ×  明石市 × 
アサヒ飲料 AKASHI CITY BOTTLERS JAPAN INC.



みんなでチャレンジ!!

2024年4月～

ボトルtoボトル



歯ブラシのリサイクル

今日を愛する。  ×  明石市
LION AKASHI CITY



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

官学連携

兵庫県立大学 と 包括連携協定 締結



パートナーシップで 誰一人取り残さない 持続可能な社会の実現へ

SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

民間提案制度 の導入

企業・団体・個人から地域課題の解決
につながる 提案を募集

3つのポイント

- ➡ 事前面談で対話を通してより良い内容を検討
- ➡ 採択・合意すれば提案者との契約を保証
- ➡ 新たな市の財政負担がない提案が対象

2024年度：37事業の提案を受付

24事業を提案採用（うち条件付17事業）



SDGs 未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

なぜ、今、対話と共創なのか？

- ▶対話は、多様な市民が対等な立場で、自らの思いを伝え、相手の思いを聴き、そして、お互いに認め合うこと。
- ▶対話を通して、新たな気づきや共感、思いやりの心が生まれることでやさしいまちにつながっていく。
- ▶複雑化・多様化し続ける社会課題に対応するには、行政サービスの変革が求められるが、明石市には、コミュニティのまちづくりが浸透し、市民主体で地域課題を解決する体制の構築に取り組んできた。
- ▶そこで、市民をはじめとする様々な主体との共創の取組を展開することで、市民ニーズに沿った新たな価値の創造や地域課題の解決につながり、これまで以上に暮らしやすいやさしいまちを実現していく。

【2025年度のまちづくり方針】

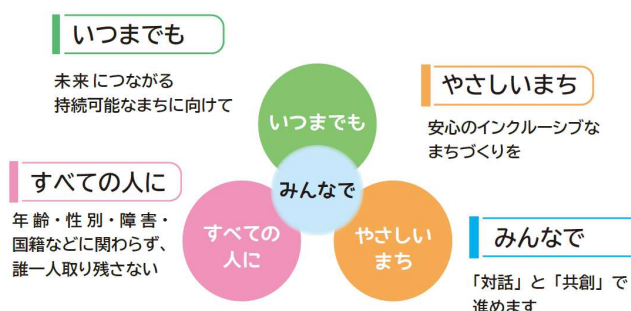
対話と共創でつくる、^{もっと}やさしいまち明石

市民の笑顔があふれる明石市に

○明石市がこれまで取り組んできた「こどもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」を更に深化させるだけでなく、対話と共創を通じて、多様な市民ニーズに寄り添い、よりきめ細かな取組を市民目線で展開することで、市民生活に更なる「安心」が生まれる“もっと”やさしいまち明石を目指します。

SDGs未来安心都市・明石

～ いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで ～



2030年の
あるべき姿

2025年度
まちづくり
方針

重点的に
推進する
まちづくり
の柱

SDGs未来安心都市・明石

～ いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで ～

対話と共創でつくる“もっと”やさしいまち明石



対話と共創のまちづくり 第2ステージへ

SDGs未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石

市民の笑顔があふれる明石市に

対話と共創でつくる
“もっと”やさしいまち明石



市民生活や経済活動の様々な困りごとへの対応、道路や上下水道等インフラの維持管理など、日常を支える施策にもきめ細やかに目配りし、市民の「安心」を広げていきます。

SDGs未来安心都市・明石

“もっと”やさしいまち明石